

農業技術センター普及指導部作物関係情報

タイトル：水稲の生育状況（7月22日現在）について

発信日：2020年7月27日

1 内容

平年値(2010～2019年までの過去10年平均)と比べ、7月22日現在の水稲の生育状況は以下の表1のとおりです。

表1 水稲の生育状況(7月22日現在)

品種	移植時期	草丈	茎数	葉色
はるみ	6月上旬*	同等	同等	やや濃い
	6月中旬**	同等	やや少ない	やや濃い
キヌヒカリ	6月上旬	やや長い	同等	濃い
	6月中旬	同等	少ない	濃い
さとじまん	6月上旬	同等	やや少ない	濃い
	6月中旬	やや長い	同等	やや濃い

*2014～2019年までの過去6年平均との対比 **2015～2019年までの過去5年平均との対比

2 留意事項

(1) 気象

気象庁が7月23日に発表した1か月予報では、気温は「平年並か低い」、降水量は「平年並か多い」、日照時間は「少ない」となっています。

(2) 出穂期

7月22日現在の生育状況と今後の気象予報から判断すると、出穂期は平年並みと考えられます。

(3) 追肥

追肥は、玄米の充実促進と外観品質向上のために実施します。

追肥時期は幼穂の長さから判断し、施用量は水稲の生育状況や品種、水田の状況により調整を行います。6月上旬植えの「はるみ」や「キヌヒカリ」は追肥の施用時期を迎えているので、幼穂長を確認してから施用しましょう。※幼穂長の測定方法は、次のページを参照参考までに、平年の追肥時期と施用量は以下のとおりです。

◎平年の追肥時期と施用量

はるみ	時 期：出穂期の15日前頃	【幼穂長 15～20mm 程度】
	施用量：窒素成分 2 kg (10a 当たり化成肥料 17-0-17 では 12 kg程度)	
キヌヒカリ	時 期：出穂期の20～15日前頃	【幼穂長 2～20mm 程度】
	施用量：窒素成分 2 kg (10a 当たり化成肥料 17-0-17 では 12 kg程度)	
さとじまん	時 期：出穂期の15～10日前頃	【幼穂長 15～80mm 程度】
	施用量：窒素成分 2～3 kg (10a 当たり化成肥料 17-0-17 では 12～18 kg程度)	

◎施用時期及び施用量の判断

- ・日照不足や、低温の場合は施用時期を少し遅らせます。
- ・湿田の場合や堆肥を施用した場合は施用量を少なくします。

○幼穂長の測定方法

1. 株の中で草丈が一番長く、
太い茎を根元から抜く。
2. カッター等で茎を縦方向に切る
【写真1】。
3. 幼穂の基から先端までの長さを
測定する【写真2】。
※手を切らないように注意！



茎の切り方【写真1】



幼穂長の計測【写真2】

(4) 水管理

穂ばらみ期（出穂期の15日前頃）から出穂後10日までの期間は、稲が最も水を必要とする時期なので、水を切らさないように注意します。ただし高温時は、かけ流しかん水等を行い、高温障害による白未熟粒の発生を回避します。

(5) 病虫害防除

○スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）【写真3】

ピンク色の卵塊【写真4】を水田内、畦畔・水路周辺で確認したらすべて潰します。水田内への侵入・隣接水田への被害拡大を防ぐために、水口・水尻に6～9mm目合いの網を設置して捕殺します【写真5】。



スクミリンゴガイ【写真3】



スクミリンゴガイの卵塊【写真4】



網の設置の様子【写真5】

○斑点米カメムシ類【写真6】

斑点米カメムシ類は、畦畔等の雑草で増殖するため、除草を徹底することが有効です。ただし、出穂期頃の除草は、カメムシ類を水田に追い込むことになるため、畦畔雑草の除草は出穂10日前までに必ず終わらせます。



ホソハリカメムシ【写真6】

○籾の褐変【写真7】

出穂期前後の強い降雨、強風及び高温の条件下では、籾枯細菌病、内穎褐変病といった病気や褐変症状が発生しやすいので注意しましょう。常発地では、出穂期前に薬剤散布を行います。



籾の褐変の様子
【写真7】



紋枯病【写真8】

○紋枯病【写真8】

紋枯病は、高温・多湿条件で多発します。「はるみ」や「キヌヒカリ」は紋枯病にやや弱いため、発生に注意しましょう。多発すると倒伏しやすくなるので、必要に応じて防除します。常発地では穂ばらみ期までに防除を行います。

※病害虫の発生状況等については、病害虫防除部の情報等に注意しましょう。

(6) 台風対策

台風の襲来が予測される場合、被害の回避、軽減のため、次の対策が有効です。水田等の見回りは、気象情報及び周囲の状況を十分に確認し、大雨や強風が収まり、安全な状況になってから行います。

ア 事前防止対策

- ・用排水路に詰まり等が無い点検します。定期的に清掃を行うことで、浸水及び冠水時の速やかな排水に備えます。
- ・台風前に水田の水を深く張り、倒伏や急性萎ちょうを防ぎます。

イ 事後対策

- ・損傷で茎葉からの蒸散量が多くなるので、台風通過後は湛水を保ちます。
- ・風台風、特に台風が北側を通過する場合は、潮風害（塩害）を受けやすいため、台風通過後、可能な場合は動噴等を利用して真水を散布し、洗い流します。
- ・台風通過後に病害虫が発生することがあるので、病害虫防除部の情報に注意します。

(7) 農作業中の熱中症に注意しましょう！

日中の気温が高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等の工夫を行いましょ。汗で失われた水分を十分に補給するとともに、帽子の着用や、汗を発散しやすい服装に心がけましょ。

高温多湿の環境下でのマスク着用は熱中症のリスクが高まりやすいです。屋外で人と十分な距離を確保できる場合は、マスクを外しましょ。マスクを着用する場合は、のどが渇いていなくてもこまめに水分補給を心がけ、周囲の人との距離を十分にとれる場所で、マスクを一時的に外して休憩しましょ。

【参考】

表2 農業技術センター（平塚市）での過去10年平均値

作期	品種名	追肥時期	水を切ってはいけない期間	出穂期	成熟期
5月27日植	キヌヒカリ	(7月17日～22日頃)	7月22日～8月16日頃	8月6日*	9月13日*
	さとじまん	7月29日～8月3日頃	7月29日～8月23日頃	8月13日*	9月25日*
6月7日植	はるみ	(7月26日頃)	7月26日～8月20日頃	8月10日	9月19日
	キヌヒカリ	(7月20日～25日頃)	7月25日～8月19日頃	8月9日	9月17日
	さとじまん	8月1日～6日頃	8月1日～8月26日頃	8月16日	9月27日
6月17日植	はるみ	8月1日頃	8月1日～8月26日頃	8月16日**	9月27日**
	キヌヒカリ	7月26日～31日頃	7月31日～8月25日頃	8月15日	9月26日
	さとじまん	8月5日～10日頃	8月5日～8月30日頃	8月20日	10月4日

- ・ 出穂期約15日前～出穂期10日後までの約1か月間は、水稻が最も水分を必要とする時期であるため、水田の水を十分に保つようにする。
- ・ * ; 5月下旬植については、2002～2006年（5年平均）のデータに基づく。
- ・ ** ; 6月中旬植の「はるみ」については、2010～2012、2015～2019年（8年平均）のデータに基づく。

問合せ先

農業技術センター普及指導部作物加工課
平塚市上吉沢1617
TEL : 0463-58-0333 内線 381～384
FAX : 0463-58-4254